

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平 6-6215

(43) 公開日 平成 6 年 (1994) 1 月 25 日

(51) Int. Cl.⁵

B65D 1/02
6/16

識別記号 庁内整理番号

Z 7445-3E
6916-3E

F I

技術表示箇所

(21) 出願番号

実願平 4-52476

(22) 出願日

平成 4 年 (1992) 7 月 1 日

(71) 出願人 000006909

株式会社吉野工業所

東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号

(72) 考案者 小川 利一

東京都江東区大島 3 の 2 の 6 株式会社吉
野工業所内

(72) 考案者 鳴田 伸治

東京都江東区大島 3 の 2 の 6 株式会社吉
野工業所内

(72) 考案者 後藤 孝之

東京都江東区大島 3 の 2 の 6 株式会社吉
野工業所内

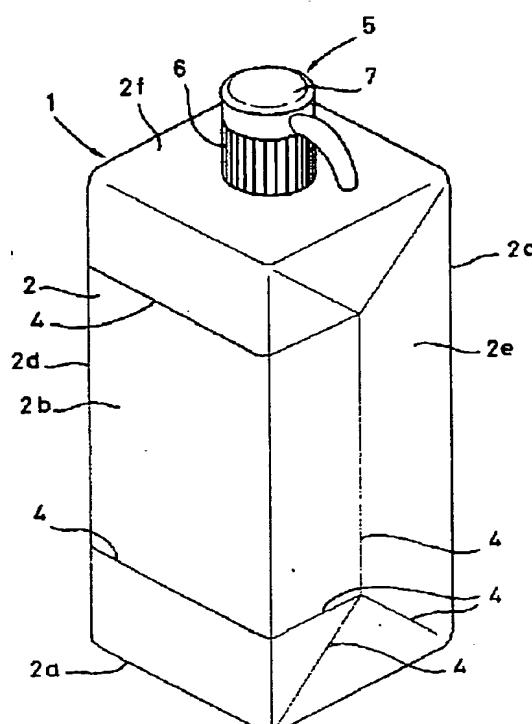
(74) 代理人 弁理士 今岡 良夫

(54) 【考案の名称】 合成樹脂製容器

(57) 【要約】

【目的】 使用時には良好な保形性を有し、廃棄の際に
は簡単に折り畳めて嵩の小さな廃棄物として処理するこ
との出来る合成樹脂製容器を提案する。

【構成】 筒状胴部 2 の所定位置に折り曲げ線 4 を設け
て、胴部 2 を平板状に折り畳むことを可能に構成した。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】筒状胴部2上端より口頸部3を起立してなり、上記胴部2の所定位置に折り曲げ線4を設け、該折り曲げ線4部分を折り曲げることにより胴部2を平板状に折り畳める如く構成してなることを特徴とする合成樹脂製容器。

【図面の簡単な説明】

【図1】本考案容器の一実施例を示す斜視図である。

【図2】同実施例の容器を折り畳んだ状態を示す斜視図である。

【図3】同実施例の折り曲げ線の拡大断面図である。

【図4】折り曲げ線の他の実施例を示す拡大断面図であ

る。

【図5】折り曲げ線の更に他の実施例を示す拡大断面図である。

【図6】本考案容器の他の実施例を示す斜視図である。

【図7】同実施例のキャップを外した状態を示す斜視図である。

【図8】同実施例の折り畳んだ状態を示す斜視図である。

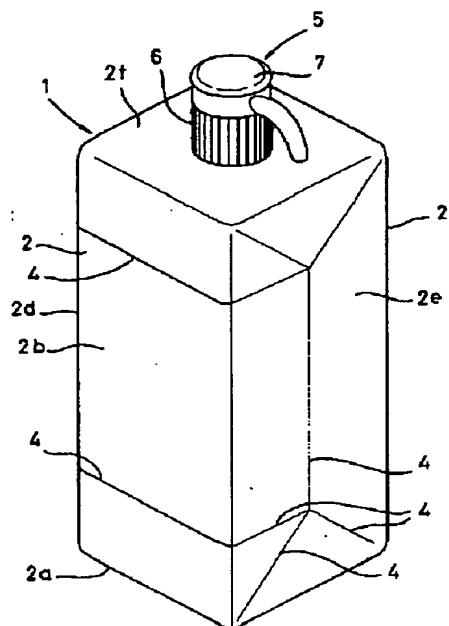
【符号の説明】

10 2 胴部

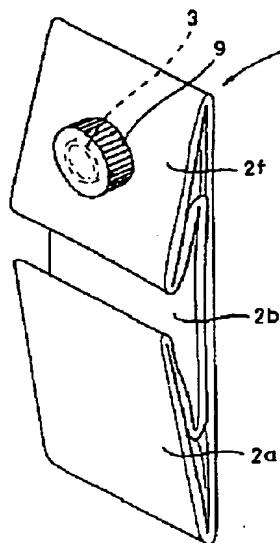
3 口頸部

4 折り曲げ線

【図1】



【図2】



【図3】



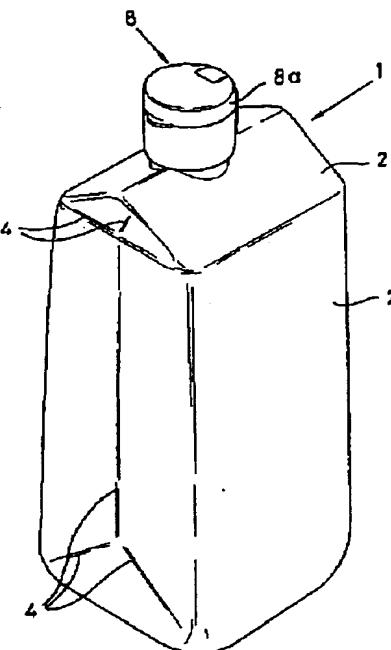
【図4】



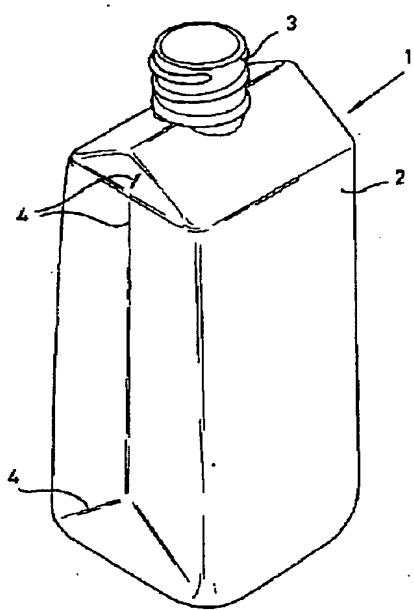
【図5】



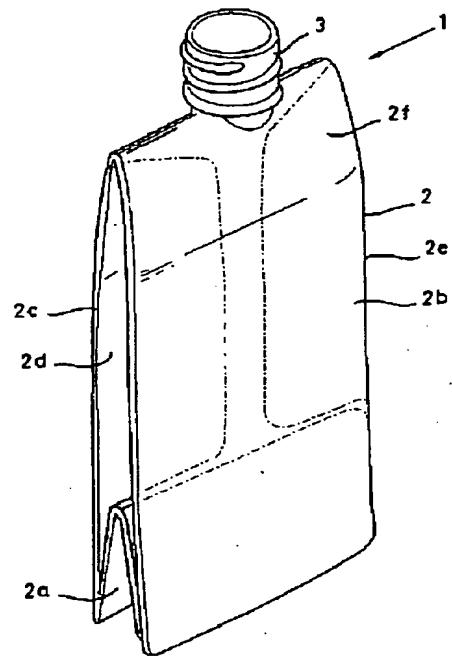
【図6】



【図 7】



【図 8】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は合成樹脂製容器に関する。

【0002】

【従来の技術】 【考案が解決しようとする課題】

液状化粧品等を収納する容器は、保形性を有する合成樹脂或いは硝子等により形成され、従来は内容物の使用後廃棄するのが一般的である。しかしながら、近年のゴミ処理事情の悪化に伴い、廃棄物は出来るだけその重量及び嵩を押さえることが要望されている。

【0003】

本考案は、この様な点に鑑みなされたもので、小さな嵩での廃棄物として処理することが可能な合成樹脂製容器を提案するものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】

本考案容器は上記課題を解決するため、筒状胴部2上端より口頸部3を起立てなり、上記胴部2の所定位置に折り曲げ線4を設け、該折り曲げ線4部分を折り曲げることにより胴部2を平板状に折り畳める如く構成した。

【0005】

【作用】

図1の状態から吸い上げポンプ5を外した後容器1を折り曲げ線4に沿って谷折りすることにより、図2に示す如く、平板状に折り畳むことが出来、小さな嵩の廃棄物として処理することが出来る。この際、容器1に装着されていた吸い上げポンプ5或いは図6に示す如き注出キャップ8等は交換した容器1に再び利用出来る。

【0006】

【実施例】

以下、本考案の実施例を図面を参照して説明する。

【0007】

図1～図3は本考案の一実施例を示すもので、図中1は合成樹脂製容器を示す。該容器1は全体を合成樹脂により一体に形成したもので、四角板状の底壁2a四辺より各々縦長長方形状の前後壁2b, 2c及び左右側壁2d, 2eを延設し、各前後壁及び左右側壁上端縁に周縁部を連結した四角板状の頂壁2fを延設してなる四角筒状の胴部2を有し、又、胴部頂壁2f中央部より円筒状の口頸部3を起立して構成している。

【 0 0 0 8 】

又、上記胴部2の所定位置には折り曲げ線4を形成している。そして、この折り曲げ線4部分に於いて胴部2を折り曲げることにより、図2に示す如く、両側壁2d, 2eが内方へ凹むとともに、頂壁2f及び底壁2aが内方へ折り込まれる如く胴部2を平板状に折り畳むことが可能に構成している。尚、図中9はキャップを示す。この折り曲げ線4は、その長手方向と直行する断面形状が図3に示す如く胴部2の壁部をW字状に内外方向へ屈曲突出したもので、金型等により容器1の形成時に同時に形成されたものである。

【 0 0 0 9 】

又、該容器1には吸い上げポンプ5を着脱自在に嵌着させている。この吸い上げポンプ5は、上記口頸部3外周に螺着させた装着キャップ6により、下端の吸い上げパイプ付きシリンダー（図示せず）を胴部2内へ垂下させるとともに、上端のノズル付き押し下げヘッド7を上方付勢状態で上下動可能に突出した公知機構のものであり、押し下げヘッド7を上下動させることにより胴部2内の液を吸い上げ、ヘッドのノズルより注出する如く構成したものである。

【 0 0 1 0 】

尚、上記折り曲げ線4は上記実施例のものに限定されず、例えば図4に示す如き胴部2の壁部をN字状に内外方向へ屈曲突出した断面形状を有するものや、図5に示す如き胴部の壁部を逆U字状に内方へ屈曲突出した断面形状を有するものであっても良く、要は胴部2を構成する壁の肉厚をあまり変化させることなく、該壁部を内外方向へ屈曲突出させた断面形状を有する溝状をなしていれば良い。この様な折り曲げ線の形態は、胴部内に液を収納した容器使用時には折り曲げ線が存在するにもかかわらず良好な保形性を有し、又、廃棄時に胴部2を折り畳む

際には、当初若干の力を必要とするが、容易に容器1を平板状に折り畳むことができる。

【 0 0 1 1 】

図6～図8は本考案容器の他の実施例を示すもので、本実施例では、胴部頂壁21の前半部が漸次上昇する傾斜面に、又、胴部頂壁の後半部が漸次下降する傾斜面をなす山型に形成し、この山型部分の両側に正面三角形状の凹部を形成してなる公知形態の胴部2を有するものである。又、この胴部2の形状の変化に伴い、折り曲げ線4の形成位置も上記実施例とは相違し、又、折り畳み形態も上記実施例とは相違する。即ち、図8に示す如く両側壁中央部分及び底壁中央部分が内方へ凹んで平板状に折り畳まれる如く構成している。

【 0 0 1 2 】

又、本実施例の容器1には公知形態の蓋体8a付き注出キャップ8を着脱自在に装着させている。

【 0 0 1 3 】

【 考案の効果 】

以上説明した如く本考案容器は、既述構成したことにより、内容液を使い切った後の廃棄物の嵩を小さいものとすることが出来、昨今のゴミ処理事情に好適な容器である。

【 0 0 1 4 】

又、折り曲げ線を、胴部の壁部を内外方向へ屈曲突出させて形成した溝状をなす折り曲げ線として構成すれば、単に壁部を薄肉にして形成した折り曲げ線等と比較して容器使用中にはその存在にもかかわらず良好な保形性を有し、一方廃棄時には容易に平板状に折り畳むことが可能である。